「神の愛から私たちを引き離すものはない」

ローマ８：３８－３９

堀田修一　２３・１２・３１

本日は、２０２３年の最後の主日礼拝です。主の恵みを忘れずに感謝するために、本日のみことばは、相応しいものです。深く味わいましょう。本日のみことばの愛で、この一年も主に愛され支えられました。

Ⅰ　主は私たちが試練を耐え忍べる特別な力を与えて下さる。この一年も、それぞれ試練がありました。

１．主は、厳しい試練を耐え忍べる力を与えて下さいます。そして、私たちは、年齢順ではなく、神の時に死を迎えます。その時にも栄光の希望を神は与えて下さいます。栄光の主が天国で迎えてくださる栄光の恵み。永遠に主と共にいて愛される恵み。パウロは言っています。「死ぬことは益です」「世を去ってキリストともにいる…そのほうが、はるかに望ましいのです」（ピリピ１：２１，２３）。今年は、６名の方の葬儀式が行われました。それは希望のない葬儀式ではなく、愛する兄弟姉妹たちの天国へ旅立ちの葬儀式でした。お一人お一人の人生は多くの試練があっても、神に救われ神に愛された尊い人生でした。

２．私たちの人生に起こる「すべてのこと（この一年のすべても）が益」となります。８：２８にあるように「神を愛する（まず神に愛され、その愛を感謝し神を愛する）人々、すなわち、神の御計画にしたがって召された（神に招かれ救われた）人々のためには、神がすべてのことをともに働かせて益（私たちを主の姿に成長させられる、神に近づく、他の人に思いやりのある人に変えられる、神の御計画の前進）として」くださいます。５章でも「キリストによって私たちは、信仰によって、今立っているこの恵みに導き入れられました。そして、神の栄光（栄化）にあずかる望みを喜んでいます。そればかりではなく、苦難さえも喜んでいます。それは、苦難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し（聖化）、練られた品性が希望を生み出すと、私たちは知っているからです。この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです」：２－５。「神がすべてを益とされる」という真理をパウロは何度も繰り返していることを感謝しましょう。今年も、神がすべてを導き益とし、洗礼、転入の恵み、客会員が加えられる恵みを与えて下さいました。

３．ローマ人への手紙だけではなく、神が苦難を益とされる恵みを、Ⅱコリント１章でも語っています。「私たちにキリストの苦難があふれているように、キリストによって私たちの慰めもあふれているからです。…私たちは、非常に激しい、耐えられないほどの圧迫を受け、生きる望みを失うほどでした。…それは、私たちが自分自身に頼らず、死者をよみがえらせてくださる神に頼る者となるためだったのです。
神は、それほどの大きな危険から私たちを救い出してくださいました。これからも救い出してくださいます。私たちは、この神に希望を置いています」：５－１０。神は、私たちを、これまで

も、これからも救い出してくださいます。そのような苦難を通してでなければ学べない神の下さる深い霊的な訓練があります。この一年も、苦難、試練から神の深い愛、人々の愛、痛み、自分の弱さを学ばせられました。

４．「圧倒的な勝利者」の主が、いつも私たちを支えてくださるので、私たちも主によって「圧倒的な勝利者」になれます。ある激しい迫害を受けた聖徒は、こう言っています。「福音のために味わう苦難の杯は、深みとともに甘さを増します」。苦難が深ければ深いほど甘くなります（その中でしか味わえない主の恵みを味わえます）。「私たちを愛してくださった方によって、私たちは圧倒的な勝利者になります」：３７。私たちに対するキリストの愛は、決して私たちを離されません。何が起ころうとも！主は私たちを「圧倒的な勝利者」にしてくださいます。神の御支配の中にある「患難さえも喜べる」ようにしてくださいます。患難さえも偶然や無意味のものではなく、神の御手の中にあり、意味があり、益とされます。

Ⅱ　神の恵みについて最も高尚なローマ８章で、最後に、壮大な真理で締めくくられます。
「私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いたちも、支配者たちも、今あるものも、後に来るものも、力あるものも、高いところにあるものも、深いところにあるものも、そのほかどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスのある神の愛から、私たちを引き離すことができません」：３８，３９。

１．ここに記された「私たち」とは、どのような人でしょう。①主イエス・キリストを信じ、キリストに自分を委ね、神の愛を知り続けている人。②イエス様が、ただの人間ではなく、神ご自身であることを信じている人。③神であるイエス様が人となり、私たちを愛し私たちの救い主としてこの世に来られたことを信じている人。④主イエスが、私たちの全ての罪の罰を背負い、十字架でその刑罰を受け、私たち人間が義と認められる（すべての罪が赦され、主の義の衣を着ているので神の前に正しいと認められ、神と和解でき、神と交わる恵みにあずかる）ために主が復活されたことを信じる人。この一年の赦しを感謝！

２．神の愛は、ことごとくキリストの中にあります。私たちへの神の完全な救いの確信の土台は、私たちへの神の不変、永遠の愛です。御父と御子と御霊は、私たちの救いにおいてともにお働きになります。私たちを深く愛してくださるのは「御父の愛」「御子の愛」「御霊の愛」。救いの土台は、神に対する私たちの愛ではなく、私たちに対する神の先行的永遠の愛です。私たちの愛は、もろく、誤りやすく、変わりやすいものです。神に感謝すべきは、私たちの救いは私たちにではなく、私たちに対する神の変わらない愛にかかっているのです。私たちが主をつかむ手が弱っても、私たちをつかむ神の御腕は、全能で弱ることがないのです。主は言われた。「父がわたしを愛しされたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛の中にとどまりなさい」ヨハネ１５：９。神はご自分の御子を愛されたように私たちを愛しておられる。神は御子の存在を愛しておられるように、私たちの存在を喜び愛しておられます。

３．神の愛から私たちを引き離すことが決してできないもの。３８節→「死も」＝「最後に滅ぼされるのは死です」（Ⅰコリント１５：２６）。しかし、キリストはすでに十字架の死から三日目に復活し死に勝利してくださった。「死のとげは罪（罪の罰は主の十字架で完了された）であり、罪の力は律法（罪のない主は３３年の生涯で律法を完全に守られた）です。しかし、神に感謝すべきです。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました」

「死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか」（Ⅰコリント１５：５５―５７）。「いのちも」＝生きることは私たちを落ち込ませることがある。そんな時も、私たちとともにおられるキリストは、いのちの主であられる。主は言われた。わたしは「生きている者である。わたしは死んだが、見よ、いつまでも生きている」黙示録１：１８。私たちは、試練があっても、人生を恐れる必要はない。試練のある人生も決して私たちを神の愛から引き離せない。「御使いたちも」＝この個所の御使いは、邪悪な天使を意味する。邪悪な天使、悪霊も私たちを全能の神の愛から引き離せない。「支配者たちも」＝悪魔や悪魔に支配される世の支配者たちも私たちを圧倒的勝利者の神の愛から私たちを引き離せない。「今あるものも、後に来るものも」＝現在と将来に存在するいっさいのものも神の愛から引き離せない。「力あるもの」＝現実に力を持っている者たちも、「高いところにあるものも、深いところにあるものも」＝高い天上を支配している勢力も、またどんなに深いハデス、よみ、地獄の力も私たちを神の愛から引き離せない。「そのほかどんな被造物も」＝神は全被造物を創造し、今も支配しておられるので、どんな被造物も私たちの主イエス・キリストにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません」：３９。

祈り：何ものも、神の愛から私たちを引き離すことができるものはなく、主を信じる私たちの救いは永遠に確実である恵みを感謝します。この一年、色々な事がありましたが、そのすべてを神が支配しておられ、人の目にマイナスに見えることも益としてくださり、すべての事の背後に神の愛がある恵みを覚え、一つ一つの恵みを数え感謝します！